

かお・人・interview

2018年11月1日

新会長
 インタビュー


一般社団法人
 福岡市設計測量業協会 会長

福澤一博氏

Kazuhiro FUKUZAWA

測量設計は街づくりに貢献する仕事だ。道路、河川、ダム、橋など、仕事は多岐にわたる。近年は技術開発も進み、ITを駆使した現場も多い。求められる知識や経験は高まるばかりだ。加えて、働き方改革の実施にともない、時短や週休二日制など、建設業界にも新しい流れが生まれようとしている。それらの問題に、協会としてどう取り組むのか新任の福澤会長にお話を伺う。

Q 会長就任にあたっての抱負

一番に考えることは、福岡市に協会をもっとアピールしたいと思っています。福岡市の測量設計指名業者は約800社。そのうち約400社が福岡市に本社を置いています。その中で協会会員は約72社。加盟率の伸び悩みを感じます。

少人数の会社などは、時間的制約や金銭的な理由で入会に積極的になれない。また、福岡市からの仕事は指名が1～2本あればいい、という見通しで参加している会社もあります。新規会員の低迷は、協会の知名度に魅力を感じられないのでしょうか。この状況を変えるには、福岡市との連携をさらに強固なものにする必要があります。



▲測量現場（写真提供：福岡市設計測量業協会）

ここ数年は災害も多く、福岡市と問題の解決に携わっています。たとえば、市道、林道、中学校の壁が壊れた、曲淵ダムの水源地の調査など、約30カ所くらいあります。急な対応を求められても、それを実行していくことで、実績が上がり、指名率アップにもつながると思います。

また、福岡市の指名業者選定理由の中に、「福岡市設計測量業協会」に「登録」のチェック項目を付けたいと思っています。環境に対するISOは事項としてあるのに、設計測量には何もありません。ここには是非「福岡市設計測量業協会登録」の一行を書き加えてもらいたいと思います。



Q 当事務所の紹介（事業内容、組織、特徴）

当協会は、設計測量業の技術向上と発展を通じて、会員の指導及び連絡に関する業務を行い、安心安全な生活環境の発展を推し進め、公共の福祉に寄与することを目的としています。

平成30年7月現在の会員数は、正会員72社（設計部門35社、測量部門37社）、賛助会員19社となっています。主な協会活動は、経営者研修会、技術研修などです。

活発に活動しているのは平成25年2月15日に福岡市と締結した「防災協定」です。ここ数年の災害被害において、調査・報告などの支援に多くかかわっています。ほかに、社会貢献活動にも力を入れてます。市内道路における危険個所の調査報告、次に飲酒運転撲滅に関する宣言、街区基準点（公共基準点）の管理・運用など活動しています。

測量・地図について話をさせてもらう出前講座を小学校で実施しています。そこでは実際に現場で使うドローンを飛ばしますので、生徒の関心はとても高い。また、「測量の日」記念イベントなども開催しています。

Q 働き方改革について、貴団体の取り組みを教えてください。

完全週休二日制の導入を提案しています。時間的余裕がない、難しい、と現状を嘆いてばかりでは何も変わりません。まずは、「できること」から始めるのが、人材確保や職場の定着につながります。環境が変わることで従業員の意識が高まり、若い世代も設計測量業界に興味を抱いてくれるのを期待しています。

災害時、早期復旧のために行政との連携を求められます。『残業ゼロ』を掲げるのは無意味です。

私の会社では完全週休二日制です。限られた時間で計画的に業務を遂行するよう提案しています。休みを明確にすることで個人のスキルや向上心は高まったと思います。

Q GPS測量やドローン空撮測量などのITが人材不足を補えるか。

GPS測量は機能していますが、ドローンは国土地理院で撮影マニュアルが整備されつつあります。立ち入りが困難な現場でドローン撮影をしてほしい、と問い合わせもありますが、空撮はできても、基準点（くい打ち）がなければ測量や設計に生かすことはできません。基準点を立てるには人力に頼るしかないのが現状です。

また、ドローン本体も搭載するカメラも導入を躊躇する金額ではありませんが、問題は撮影画像データを元に使用するPCや専門のソフトが、初期投資にはハードルが高い高額商品です。数年後には環境の変化が訪れるかもしれませんが、このふたつで若手技術者不足を補うのは、今は難しいと思います。

ただ、測量器具を抱え測って回る必要はありませんから、肉体的な辛さは軽減されました。ITが本格的に活躍するのはもう少し先、けれど、業界に浸透するのは事実です。その進歩に期待しています。

Q 毎年6月3日に行われる「測量の日」のイベントについて教えてください。

測量といえば、歩数から距離を計算して日本地図を作った伊能忠敬が有名です。言葉で言うと簡単ですが、歩幅が一定になるように訓練し、全国を歩き続けるには並大抵の苦勞ではなかったでしょう。その



▲出前講座（写真提供：福岡市設計測量業協会）



▲写真提供：福岡市



▲「あそこまでなんぼ」イベント（写真提供：福岡市設計測量業協会）

「歩測」を通じて、測量や地図を身近に感じてもらう、それが測量の日「あそこまでなんぼ」のイベント（場所：天神中央公園 時間：12：00～14：00）です。

開催日を6月3日と定めていますので、曜日を選ぶことができます。土日であれば家族参加も期待できるのですが、平日だと参加人数が増えにくいのが難点。22年間継続してきたイベントです。今後も市報などに掲載してPRに力を入れたいと思います。

ルールは公園内の指定された場所を「歩く」シンプルなものです。優勝賞品もありますし、年齢を問わず楽しめるので、参加者も老若男女さまざまです。ほかに、歩いて面積を測ることもします。ここ数年は「福岡国土建設専門学校」に声をかけて、生徒が参加してくれています。イベントで歩測を体感し、少しでも測量に興味を抱いてもらえればうれしいですね。

Q 測量の重要性と未来

測量は街づくりに貢献する仕事です。ダム、橋、道路、鉄道、トンネル、住宅建設など、測量の現場は街、山中や海岸、河川など多岐にわたります。

近年の地球温暖化に伴う災害現場も例外ではありません。メディアは警察や自衛隊が活動している場面しか放映ませんが、最初に現場入りし、状況を確認するのは我々です。測量し、データを積み上げ工事が始まる。大きな責任を担っていますが、人が安全に暮らせる街、社会の役に立つやりがいのある仕事です。今後も需要が減ることはないでしょう。

測量の日に参加してくれる福岡国土建設専門学校の生徒たちですが、外国の人も増えてきました。日本



建設業の、現場や設計条件はひとつとして同じものが存在しない
その土地固有の一品生産。

語も堪能で、長期滞在を希望しています。

専門学校を卒業すると「測量士補」の資格を得ますので、技術の研鑽を積み重ねる意識が高いならば、雇用するのに問題はありません。少子化に伴う労働力人口の減少、変化する現場の環境を考えると、さまざまな状況に対応することが大事でしょう。

職場環境の見直し、IT活用、外国人雇用など、少しでも取り組みを推進していくことが求められます。

Q 趣味や心がけ

趣味は魚釣りです。慌ただしく動いているせいか、自分と対峙できる時間は格別です。季節によって獲物は違いますが、糸島まで行くときもあります。釣りを楽しみながら、美しい朝焼けに毎回感動しています。

つねに心がけているのは笑顔でいること。どんなときにも笑って過ごすのが一番です。当たり前のことですが、笑顔は周囲も当人も明るくさせます。それは前向きな気持ちになりますし、パワーの源になります。

プロフィール



出身地：福岡県春日市
生年月日：昭和33年7月27日（60歳）
役職名：代表取締役社長
職歴：S57株式会社スリーエヌ
技術コンサルタント入社
H24～現職

主な役職：一般社団法人 福岡市設計測量業協会 会長
一般社団法人 福岡県測量設計コンサルタンツ協会
(設計委員会担当) 副会長